サービスラーニングで見たＮＰＯの地域での必要性

社会福祉学部社会福祉学科２年　加我 紗保
活動先：ＮＰＯ法人　ゆいの会
クラス：松下 典子 先生

１．自分の成長と気づき

私はサービスラーニングを受ける以前は高齢者、障害者の方と関わる機会がなかったり、サークルも入っているわけでなくどう関わって良いか不安で、ＮＰＯの活動が分からず漠然としていた。しかし実際活動をして特に「ゆいの会」は幅広い活動を行っていることが特徴であり様々な体験をさせていただき、利用者の方と関わることの楽しさや地域の中でサービスを必要としている人がたくさん居ることを知った。二年生の時にこのような経験をして本当に良かったと思うし普段受けている講義でも利用者、当事者の方の立場から見てみようと少しでも考えるようになった。

利用者の方と積極的に関わろうと自分から話しかけたり、常に笑顔を心がけたりしたのも成長した部分である。私はどちらかというと話を盛り上げたりすることが苦手で不安で仕方なかったけれど利用者の方と一緒にお話することを楽しみたいなと思い接してみた。目を見て相手の話を聞くことで相手にも信頼感を与えもっと話そうと思うし、思っていることを分かりやすく伝えることで相手もきちんと聞いてくれてコミュニケーションがよく取れるということを感じた。人と人との関わりが一番重要な活動であるためコミュニケーションを図るのはとても大切なことである。また訪問介護をしたときは、初めて視覚障害の方と接し相手に「何を言ったら歩きやすいだろう、また、どんな支え方をすれば安心感を与えることが出来るだろう」と初めての場で戸惑い考えてみた。訪問介護では個人の担当者が決まっていて、利用者の方と職員の方の会話を聞いているとお互いに信頼関係を築いているのだなと感じた。利用者の方も実際に「この人はよく働いてくれるし、よく気を遣ってくれて本当に助かる。いなくなったら困ってしまう。」と言っていた。きちんと仕事をすることや利用者の方によく話しかけることで相手も心を開いてくれるのではないか。

私は高齢者分野に興味があり障害者分野は今まであまり考えていなかったが、一日だけ障害者の方と関わる機会があった。その日は残念ながら一人だけしか参加しなかったため多くの方とは関わることが出来なかったけれど障害者の方とお話をすることで新しい分野への興味が湧いた。

２．活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

初日に私たちは「ゆいの会」の入り口の整理をした。私もＮＰＯのことを知らなかったように地域の方もあまり「ゆいの会」について知らないと思う。何をしているか分からないと建物の中に入ることも戸惑うと思うため入り口の扉に活動内容を書いた紙を貼ったり、パンフレットを取りやすくしたり工夫をしてみると後から職員の方に「あれから中まで入ってくれる人も居て、作った作品を買ってくれる人もいたよ」と言われ、外を通る人たちにも分かりやすくすれば同じ地域に住んでいる方たちは興味を持ってくれるものだと感じた。やはりもっとＮＰＯについて地域の方に知ってもらうことが必要であり、知ってもら

うことで活動に参加してくれる方が増えていくのではないだろうか。

３．活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

配食サービスの活動をしたとき、私は巽ヶ丘という地区に初めてお弁当を届けたが巽ヶ丘に行って驚いたのは、すごく高い位置に住宅が密集していることと、その住宅地周辺にはお店がなく下まで降りないと食糧を確保出来ないということである。まず歩いて上るのには厳しく車を所有している方や家族と一緒に住んでいる方は自分で行ったり、家族に買ってきてもらうよう頼んだり出来るだろうが高齢者の一人暮らしの方はそうはいかない。そのような方たちにはこうした配食サービスが必要だと改めて感じた。ただお弁当を届けるだけではなく、そこでする会話も体調はどうか伺うことが出来るし、安否確認も兼ねることが出来るというのも地域活動と言えるだろう。

「ゆいの会」は地域の方の“居場所づくり”を考えていてさをり織り、陶芸などのふれあい活動、またゆいサロンは特に地域の色々な方が集まって話をすることで気分転換になったり趣味を見つけ没頭したりすることで「また行きたい」と思うことができ、集まることが楽しくなる。高齢者は全員が全員ではないけれど外に出る機会が減り、人との関わりも減ってくると思う。いくつになっても人と繋がることは嬉しく楽しいことだと思う。

こうした気軽に来る事ができる「居場所」が地域にあるのとないのとでは毎日の暮らしが全然違う。また普段は子どもたちも集まれるような活動を行っていると知り高齢者、障害者、子どもといった対象者が偏らず、誰もが参加できるような活動をしていることも印象に残った。

一つ問題を挙げるなら、どのＮＰＯもそうなのかもしれないが男性の職員の方、ふれあい活動へ参加する男性が少なかった。どちらかというと女性が多く感じた。もっと男性の方も参加しやすいように工夫すると良いのかもしれない。私たちも実際ふれあい活動を体験してみて、初めてだったけれど丁寧に教えてくださり、もっと何回もやって上手になりたいなと思ったしすごく楽しむことが出来た。職員の方たちの熱心な取り組みも利用者の方への信頼を生んでより楽しくなるのだろうと感じた。

制度外のサービスを行っている事にもとても興味が湧いた。例えば家の掃除、庭の草取り、犬の散歩、話し相手なども行っている。実際に職員の方に聞いたのは車椅子の方が野球観戦に行きたいと言っていたからチケットを取って一緒に見に行ったというお話である。制度では介助中心だが制度外にすることで利用者の方の細かいニーズを満たすことが出来るということが大きい。一人一人のニーズに合わせて選択肢がたくさんあることで必要なサービスがあり利用しやすく安心して暮らせる。

４．終わりに

まだ知名度はあまり高くないかもしれないが少なくとも今利用している方たちは「ゆいの会」を必要としていて、居心地の良い場所として感じている。なくなっては困る所と利用者の方も言っていたように必要としている方が大勢いる。講義では言葉として活動の内容についても聞いて何となく理解していたけれど、実際現場の声を聞いてみてその言葉の意味をもう一度考えることが出来た。

地域との関わりを持つためにもっと地域の方々と交流をし、困ったときは助け合えるよ

う信頼関係を築いていくことが地域福祉の取り組みとして大切なことである。